



横須賀市の学童保育

5/12（日）総合福祉会館で「横須賀市学童保育連絡協議会」の総会が開催されました。

オープニングでは、子どもたちの笑顔いっぱいDVDの上映。
みんな、かわいい！いい表情！この笑顔のために、私たちができることは？
しっかりと取り組みたいと感じながら、皆さんのお話を伺いました。



「子どもたちの命を守る。生半可な気持ちじゃだめ。
研修で指導員としての力を磨いていく。」
と話して下さったのは明浜学童はるーどクラブの行谷さん。
指導員や保護者の皆さんの熱い気持ちが伝わってくる総会でした。

（写真は基調報告をする行谷さん）

議員になって以来、「神奈川県学童保育（放課後児童クラブ）を支える議員連盟」に所属し、県下の学童を視察したり、指導員の皆さんと意見交換を行っています。子どもたちや指導員の皆さんと同じ目線で、学童のよりよいあり方に取り組んでいきたいと思っています。

学童を「法の狭間から脱出させたい」と議連が作られたそうです。

目標は

- ①**父母負担の軽減**（横須賀の学童保育は、民設民営。父母中心で運営を行っています。小学校の中にあるのは14学童。その他は親が物件を探し、賃料を払い、運営を行っています。）
- ②**県内の学童の格差是正**（横須賀の学童の保育料は、2万円を越えている所がほとんどです。全国平均は8千円。県内で最も高いと言われています。）
- ③**指導員の環境整備**（一番高い水準にあわせる）

ここに、**子ども・子育て関連3法施行にむけての取り組み**が加わりました。

昨年視察した浦郷学童が念願の小学校へ入居する事が決まりました。長年の願いが叶いました。とても喜ばしいことですが、小学校への入居をすすめる上での諸問題、入居の為の条件整備の統一化など、まだまだ課題が残されていますが、まずは一歩前進。浦郷のみなさんが笑顔で報告して下さいました。

子ども達の笑顔のために取り組んでいきます。皆様のお声を聞かせて下さい。
（6月定例会の後、川崎市の学童を視察しますので後日報告いたします。）



めぐりの森の植樹祭

5/6、湘南国際村で「第7回めぐりの森植樹祭」が開催されました。
テーマは「22世紀に引き継ぐ都市近郊の森づくりのはじまりに」。

「めぐりの森植樹祭」は、神奈川県・横須賀市・葉山町などが後援して年に2回開催される植樹イベントです。

毎回多くのの方が参加されるこの植樹祭、今回の参加者は、600名。
主催の非営利活動法人・国際ふるさとの森づくり協会（レナフォ）は、震災から2年たった今も、東北で復興の為の「鎮守の森づくり」や「緑の防潮堤プロジェクト」などの支援活動を続けています。被災地での植樹の主木はシイ・タブ・カシを始めとする「ふるさとの木」です。国際村で行われる植樹もこれら「ふるさとの木」。

振り返ってみると、2年前県議として最初に参加したイベントが、この「めぐりの森」の植樹祭でした。植樹の指導をして下さったのは、2年前と同じく横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生。

宮脇先生は、これまでに4000万本の木を植えた「植樹の神様」と言われています。宮脇先生は、311・東日本大震災の後、「震災がれきを利用して、命を守るふるさとの森を作る」ことを提唱されました。

宮脇先生の著書の帯にはこう書かれています。



『甚大な被害をもたらした東日本大震災の津波に耐えて、「その土地本来の樹木樹木」はたくましく生き残り、その防災力を証明した。宮脇さんが提唱する「森の防波堤」は震災復興のため、将来の安全な暮らしのため、そして日本人の心を支えるためのプロジェクトである。』
宮脇先生から、木々の苗の植え方や、雑草を防ぐための藁の敷き方を教えて頂いた後、10組に分かれて、植樹を行いました。

宮脇先生は、「もったいない」を世界に広めたノーベル平和賞受賞者、ケニアのワンガリー・マータイさんとも植樹を通じて交流があったと伺っています。

その土地で長い歳月をかけて進化・発達してきた木々を植えれば、緑の成長は早まり、根も良く張って砂漠化を防ぐ事が出来ます。ケニアでは国有林にユーカリや松などの外来種を植えた為、森林破壊が急速に進みました。それを止める為にマータイさんは3000万本の植樹をされたそうです。20年、30年後に、その木々が生長し、地球環境保全林となることを願って…。そんな気持ちを込めて、めぐりの森で植樹しました。（次回は、秋に行われます。）